

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	経営	H1102028
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	玉川小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	158-0091		
	所在地	世田谷区中町2丁目29番1号		
	TEL	03-3702-6337		
事業所代表者氏名	事務局長 神野 俊夫			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 8 月 28 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 7 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 8 月 28 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 8 日			
評価合議日	2025 年 9 月 8 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)児童の安全な遊び及び交流の場の提供。                  2)自主的な遊びの活動への意欲及び態度の形成。                  3)学年を超えた児童間の遊びを通じた交流を促進し、児童の創造性、自主性及び社会性を養う。                  4)学校、家庭、地域と協力しての遊びの環境づくりへの支援。                  5)全各項に掲げるもののほか、児童の健全育成上必要な活動。</p>
<p>2</p>	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員として児童や保護者からの信頼を得て仕事を進める上で、自覚と自立をもって次のような職務を遂行する職員。</p> <p>①子どもの人権の尊重に配慮する。                  ②子どもに苦痛を与えない。                  ③職務を通じて知りえた情報を適正に収集、管理する。                  ④職員間の協力体制の構築に努める。</p> <p>また、職務の内容として次のような活動を推進できる職員。</p> <p>①安全・安心な遊び環境を提供し、遊びの内容を豊富にし様々な交流を推進するために適切に助言を行う。                  ②児童の興味や意欲を尊重し、児童自身が主体的に関わる仕組みを工夫する。                  ③異年齢の児童が共に遊び交流する機会と場を提供する。                  ④学校施設を活用した遊びや行事活動の工夫と実施。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>区民に信頼される世田谷区職員として、法令や規則に基づき、職務に対して全力で取り組むこと及び秘密を守る義務など、職務上の義務を果たす。また、世田谷区子どもの権利条例に基づき、子どもの尊厳と権利を尊重し、子どもが健やかに育つよう職務に取り組むことを期待する。</p>

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 160

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	160	0	160
共通評価項目による調査の有効回答者数	58	0	58
利用者総数に対する回答者割合(%)	36.3	0.0	36.3

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者156名のうち、58名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、56名が「大変満足、満足」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「漫画を増やしてもらえると嬉しい」「学童クラブは楽しくて大好き」「校庭でもっと先生と一緒に遊びたい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	51	6	0	1
51名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「友達とたくさん遊べて楽しい」「室内や校庭で遊んだり行事で遊ぶのも楽しい」「先生たちが声をかけてくれるから遊びやすい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	47	6	0	5
47名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生は優しい」「わからないことがあると教えてくれる」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	47	8	2	1

47名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。  
また、「おやつはおいしい」「おやつの時間が楽しい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	22	12	1	23
22名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 また、「おかしもち、とか大事なことを教えてくれた」「意見を聞かれたことはない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	47	4	2	5
47名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「きちんと聞いてたからわかる」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	34	14	7	3
34名が「はい」、14名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。 また、「おもちゃが散らかっていて整理されていない」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	49	4	3	2
49名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。 また、「もっと一緒に遊んでもらえると嬉しい」とのコメントもあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	1	2	4
51名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「ケガしたときにすぐ助けてくれた」「よく見てくれた」「ケガしても言いづらい」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	5	0	3
50名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「トラブルがあれば助けてくれると思う」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	45	6	0	7
45名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。 また、「先生によって対応が違うこともある」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	31	3	2	22
31名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「内緒の話はしていない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	41	8	2	7
41名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 また、「ケガした時は対応してくれた」「おもちゃ等のリクエストを定期的聞いてもらえると嬉しい」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	5	12	30
11名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、12名が「いいえ」、30名が「非該当、無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	区の理念や方針を職員に周知するとともに、保護者にも丁寧に説明している 当学童クラブでは、区が定める新BOP運営基準に基づき、理念や事業の基本方針を明確にし、職員に周知している。基準は毎年更新され、職員への説明を通じて理解を深めている。クラブ内には事業概要も掲示しているほか、クラブとしての運営目標(遊びを中心とした生活を通じて自立への支援をする)も掲げている。保護者には、保護者会や配布物を通じてクラブの方針や取り組みを丁寧に伝え、家庭との連携強化を図っている。子どもの安全・安心な生活と健やかな成長を支えるため、職員間で理念を共有しながら、日々の実践に反映できるように努めている。	
	児童館長や事務局長は、組織的かつ計画的な運営ができるように努めている クラブを所管する児童館長や事務局長は、クラブが目指す理念や基本方針の実現に向け、自らの責任と役割を明確にし、会議や日常業務を通じて職員に方向性を提示している。職員間の役割分担では、個々の得意分野を生かす配置を行い、OJTの機会としても活用できるように考慮している。例えばイベント準備では、工作が得意な職員が中心となり、他職員と連携しながら進めるなど、チーム全体での成長と実践力の向上を図っている。年度初めにはそれぞれの担当者を明確にし、組織的かつ計画的な運営ができるように努めている。	
	日々のミーティングや月例の企画会議で重要事項を決定しており、保護者にも伝えている クラブにおける重要案件の検討や決定は、主として日々のミーティングや月例の企画会議にて行われている。決定事項は職員全体で共有されており、会議に参加していない職員にも内容を伝達し、情報の周知に努めている。クラブでは今後、企画会議への参加職員の範囲を広げることで、意思決定過程への理解を深めるとともに、職員間の連携をより強化していくことを目指している。また、保護者には決定事項を便りなどで適宜伝えている。クラブ運営の透明性を保ちながら、保護者との信頼関係の構築に努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者から意見を聞く機会を設け、職員の意見は行事やイベントに反映させている</p> <p>クラブでは、お便りにご意見欄を設けて保護者の意見が集約できるようにしている。また、必要に応じて直接の意見を聴取することで、保護者のニーズ把握に努めている。日頃から運営への理解を示す保護者が多く、意見が出やすいようにコミュニケーションを重ねている。職員の意見や意向についても、企画会議や日々のミーティングを通じて把握しており、クラブ運営の質向上に役立っている。特に、行事やイベントに関する職員の提案は多く、子どもの楽しさを第一に考えた工夫が随所に見られる。</p> <p>新BOP連絡協議会を通じて、学校関係者や地域関係者との共通認識を深めている</p> <p>クラブでは、地域の福祉ニーズや状況の把握のため、新BOP連絡協議会を開催している。学校関係者や地域団体と意見交換を行いながら、子どもの生活状況を踏まえた行事への協力の仕方や、地域スポーツ団体との連携のルールを確認するなど、子どもを支える地域のあり方について共通認識が持てるようにしている。また、行政からの通知内容を職員間で速やかに共有し、事故時の対応や災害時の対応指針として活用している。こうした情報収集と連携を深める取り組みにより、地域との良好な関係性を築くことにつなげている。</p> <p>職員アンケートの結果を分析し、PDCAサイクルに沿った運営を実践している</p>		

クラブでは、年度末に職員アンケートを実施し、BOPや学童担当、月当番などの項目ごとに良好な点や改善点を抽出し、次年度計画へと反映している。職員各自から提出された意見は事務局長が集約し、理念の実現に向けた取り組みとしてPDCAサイクルに組み込み、着実に実行できるようにしている。年間計画も行事や新BOPでの活動、学童クラブ、児童館といった項目別に実施項目を明確にする形で策定している。毎月の企画会議で計画の進捗を確認しながら着実な運営を実現している。年度の児童数や活動内容は事業報告書にまとめて、区に報告している。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

### カテゴリ-3の講評

#### 5項目からなる職員倫理を定めており、職員の責任と役割の自覚を求めている

クラブでは、公務員や子どもに関わる専門職としての法や倫理の遵守に向けて、職員の手引き(新BOP運営基準、及び会計年度任用職員に関する手引き)を常時閲覧できるよう整備している。また、新BOP運営基準には、職員倫理として「子どもの人権の尊重と子どもの性別・個人差へ配慮します」、「体罰等、子どもに身体的・精神的苦痛を与える行為を禁止します」などの5項目が掲載されている。新年度ミーティングでは公務員倫理や服務規程も再確認しており、全職員が自らの責任と役割を自覚しながら職務にあたることができるようにしている。

#### 保護者からの連絡内容は記録した上で職員間で共有し、虐待防止にも努めている

クラブでは、保護者に相談窓口の周知を図り、意見・要望・苦情に迅速かつ適切に対応できるようにしている。保護者から電話連絡などがあれば、すべて記録する仕組みを整備している。保護者連絡ノートを活用し、職員間での情報の共有と対応の徹底を図っている。虐待防止に関しては、職員同士が日々の言動を振り返るとともに、子どもの気持ちに寄り添う意識を高めている。日々の打ち合わせでは、子どもの外傷や不安の兆候を確認している。万が一、家庭での虐待などが疑われるケースが生じた場合は、学校や児童相談所と連携して対応する体制を整えている。

#### 地域の関係者との協力関係を築きながら、地域に開かれた組織となることを目指している

クラブでは、地域に開かれた組織づくりを目指し、青少年委員や町会、スポーツ団体等へ活動報告のお便りを配布し、連携を深めている。学校協議会にも事務局長が参加しており、クラブの活動内容を報告している。ボランティアや実習生、見学希望者については、希望があれば柔軟に受け入れる体制を整えており、自由な見学会も実施している。地域のネットワーク内で共通課題への協働体制を築いており、地域とともに歩む姿勢を大切にしている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p><b>安全対策マニュアルを整備しており、けが等が発生した場合は再発防止に努めている</b></p> <p>クラブでは事故や災害、不審者侵入など様々なリスクに備え、新BOP安全対策マニュアルを整備している。日常の安全点検や関係機関との連携体制、地震や火災時の行動、子どものけがや感染症対応などを明記している。けがや体調不良時は応急処置(医療的な処置はしない)の範囲にとどめ、保護者に連絡し、受診を促している。その旨については、お便りなどで周知している。けがなどが発生した場合は状況や要因を記録し、事故報告書を作成の上、再発防止策を検討している。イラストの活用などにより、視覚的にも理解しやすい記録作成を行っている。</p> <p><b>事業継続計画(BCP)にあたる文書を作成するなど、非常事態に備えている</b></p> <p>クラブ独自の事業継続計画(BCP)は作成していないが、災害や深刻な事故等への備えとして、「災害時・緊急時の対応について」という文書を策定している。地震や台風、警戒宣言や警報、不審者対応などの事態を想定し、時間帯別に小学校及びクラブの対応を明示している。また、訓練では、まず机上訓練で子どもたちに分かりやすく説明した上で、火災・地震・不審者を想定した避難訓練を計画的に実施している。保護者にも災害時や下校時の対応を随時周知し、連携を図っている。職員にも定期的に内容を確認し、誰もが対応できる体制を整備している。</p> <p><b>個人情報の収集や利用などに関する規程を定め、日々、遵守するように徹底している</b></p> <p>クラブでは、個人情報の収集・利用・保管・廃棄に関する規程を整備し、職員が理解し遵守できるよう、日常的な指導と研修を行っている。入会申請書や児童台帳、記録類は整理・管理を徹底し、パソコン内のデータも活用しやすいように整理している。情報の重要性と機密性を踏まえ、アクセス権限を明確化し、必要な者のみが閲覧可能となる体制を整えている。取り扱い時には情報の趣旨や目的を丁寧に説明し、関係者の理解を得た上で対応している。漏えい防止の観点からも、施錠管理やパスワード管理を徹底している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ5の講評

### クラブの状況に合わせた採用に取り組むとともに、適切な人材配置を考慮している

常勤職員や会計年度任用の指導員の採用は区が行っているが、プレイングパートナーの採用はクラブ独自に行っている。採用にあたっては、知人の紹介や大学のゼミとのつながりを活かすなど、柔軟な工夫を重ねている。事務局長による面接を通じて、クラブの状況に合った人材を選定している。また、職員の異動については、児童館長と調整のうえで事務局長の意向を伝え、適材適所の配置を図っている。日常の業務においては、各職員の得意分野を生かした役割分担を行い、子どもにとって楽しく、職員にとってやりがいのある職場環境づくりを推進している。

### 職員が研修を受講する機会が多く、多様なテーマで学びを深めている

クラブでは、勤務形態を問わず全職員が研修を受講できる体制を整えている。アレルギー対応や嘔吐処理などの年間計画に基づく研修を実施するほか、配慮を要する児童への支援や接遇向上、虐待防止といった多様なテーマの外部研修を受講している。会計年度任用職員も積極的に受講し、希望者には管轄外の研修や民間主催の講座の情報も共有している。また、OJTを通じた日常業務での実践力向上にも力を入れており、保護者対応や緊急時対応の経験を積む機会も大切にしている。受講した内容は報告書や会議等で共有し、職員間で学びの共有を図っている。

### 職員が安心して働き続けられる職場づくりに努め、アンケートを改善に活かしている

クラブでは、職員が安心して働き続けられる職場づくりに努めている。延長保育時間帯には2名体制とし、勤務状況に応じて時間調整や超過勤務手当を適切に支給している。有給休暇も希望に応じて柔軟に取得できるよう配慮している。プレイングパートナーに職場環境に関するアンケートを実施し、勤務上の課題を把握している。その結果を踏まえ、職員間の指示伝達の明確化や、常勤職員を介した指示系統の徹底により改善を図っている。今後は意見のフィードバック機会も設け、より働きやすい環境整備と人間関係の向上に取り組む方針としている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

安全な遊びと交流の場をより提供できるためのイベントの充実。プラバン作り、七夕飾り、映画会、みんなで編もう、伝承遊び、たまりんピック等を年間計画の中に適切な時期に計画し、子どもたちの興味関心に応える。

【具体的な取り組み】

- ・年間を通してイベントを計画し、具体的な検討を進めた。担当者が企画原案を作成し、全指導員の役割分担を明確にした。
- ・イベント当日までの準備確認を入念に行い、イベントに対する子供たちの関わり方についても検討した。

【取り組みの成果】

- ・子どもたちの喜びを優先した企画を進めた。
- ・子どもたちが楽しんで積極的に取り組む姿も見られた。

【今後の方向性】

以下の具体的な取り組みを進める。

指導員の得意分野の検証、担当者他職員との役割のバランス検証、子供たちへのイベントの周知について検証、今年度のイベント担当決定への工夫、サブ担当の活用法、子どもたちの運営参加の取り組み。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、日常の遊びの中では得られない、イベントならではの異年齢交流や、子どもの積極的な遊びへの意欲態度の形成を期待し、上記の課題に対する取り組みを進めてきた。  
 具体的な取り組みとして、年間を通して安全で楽しい遊びや交流の場を提供するため、プラバン作りや映画会、伝承遊びなど多様なイベントを計画し、役割分担や準備を入念に行った。その結果、子どもたちが積極的に楽しむ姿が見られた。  
 今後は指導員の得意分野や役割のバランス、イベント周知の工夫、サブ担当の活用、子どもの運営参加などについて検証し、さらなる充実を図っていくこととしている。  
 PDCAサイクルに沿った、課題解決への取り組みが展開されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

学校、家庭、地域との連携。特に学校や地域スポーツ団体との施設使用の連携と協力体制づくり。そのための各種会議の設定と参加。

【具体的な取り組み】

- ・学校協議会への参加による新BOPの報告と要望。
- ・新BOP連絡協議会の開催による、学校への要望とスポーツ団体との連携。
- ・毎日の施設使用願と活動報告。
- ・スポーツ団体との意見交換。

【取り組みの成果】

各種会議開催や会議参加により意見交換と新BOPとしての要望を報告しているが、学校としての協力体制の充実は引き続きの課題といえる。一方、スポーツ団体においては連携や協力体制が強くなりつつある。

【今後の方向性】

以下の具体的な取り組みを進める。

各会議で確認事項の実行度検証、毎日の施設使用の手続きについての検証、小学校管理職への新BOPの説明と協力体制の確認、定期的な意見交換の提案。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li>○ 具体的な目標が設定されていない</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、子どもたちの遊ぶ場所や施設的环境により、遊びの種類や内容も大きく変わり充実した場の提供に影響してくるため、その充実につなげていくために上記の課題に対する取り組みを進めてきた。

具体的な取り組みとして、学校・家庭・地域との連携を重要課題とし、学校協議会や新BOP連絡協議会への参加、施設使用手続きやスポーツ団体との意見交換を実施した。その結果、学校との協力体制は課題が残る一方、スポーツ団体との連携は強化されつつある。

今後は、会議での確認事項の実行度検証や手続き改善、小学校管理職への説明、定期的な意見交換を進めていくこととしている。

PDCAサイクルに沿った、課題解決への取り組みが展開されている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリ1の講評	
	<p><b>新BOP学童クラブへの入退会手続きは、区のホームページや各施設で情報提供している</b></p> <p>入会を希望する保護者は、学童クラブや児童館、児童課などで案内書を受け取ることができるほか、区のホームページからもダウンロード可能である。案内書には、新規入会・継続利用・再入会に関する情報が明確に記載されている。「新BOP学童クラブ児童募集案内」には、受付日時、必要書類、手続き方法などが詳しく記されており、電子申請にも対応している。また、各学童クラブで配布される「新BOP入会案内」には、学童クラブでの生活内容についてさらに詳しい説明が掲載されている。月例便りや学童クラブ連絡協議会などでも情報提供を行っている。</p> <p><b>入会案内やおたよりの表記や内容は分かりやすく、子ども向けの紙面も作られている</b></p> <p>「新BOP入会案内」は、各施設で作成されている。職員体制や利用料、出欠席管理、間食、災害時対応、障害保険、持ち物や一日の流れ等、利用に関する情報を分かりやすく記載している。毎月発行される保護者向けの「学童だより」と放課後子供教室の「BOPだより」があり、子ども向けの紙面も作られている。子ども版は文字を大きくし、イラストを加え文字にはルビをふるなど、子ども自身が内容を理解しやすいよう配慮されている。毎月のおたよりは行政機関や児童館、青少年センターなどにも情報提供を行い、地域全体での周知に努めている。</p> <p><b>入会前に学童クラブを見学してもらい、子どもと保護者の不安軽減につなげている</b></p> <p>子どもや保護者からの問い合わせや見学希望に対し、個別の状況に応じて柔軟に対応している。子どもが保育園や幼稚園とは異なる新たな環境に移行することを踏まえ、保護者が安心して預けられるよう、学校の就学時健康診断の機会を活用して室内や遊びの様子を見学できるようにしている。また子ども自身が新しい環境に触れることへの不安が軽減できるよう工夫している。見学は電話予約により随時受け付けており、見学時には入会案内を手渡し、学童クラブの活動内容や方針について丁寧に説明し子どもや保護者が安心して利用できる体制が整えられている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>		
<p><b>入会前の保護者説明会により、学童クラブへの理解を深めてもらうよう配慮している</b></p> <p>学童クラブの入会にあたり、子どもや保護者に対して基本的ルールや重要事項を丁寧に説明し、理解を得るための取り組みが行われている。4月から入会する児童の保護者対象に3月の土曜日に説明会を開催することで、保護者が参加しやすい環境を整えており、サービス内容や利用者負担金、学童クラブと放課後子供教室の違いなどについてもパンフレットを活用しながら分かりやすく伝えている。また、説明会では単なる情報提供にとどまらず、保護者との意見交換の場を設け、子どもや保護者の意向を確認し、これらの意見は議事録として記録されている。</p> <p><b>新入会児には育成室の使い方等を説明し、在籍児とはお互いが認識できるようにしている</b></p> <p>子どもたちの環境変化への適応を支援するため、個別事情や要望を児童台帳に記録し、把握する体制が整えられている。新1年生に対しては、育成室の使い方や一日の流れ、学童内のルールを丁寧に説明し、落ち着いた雰囲気の中で安心して生活を始められるよう配慮がなされている。また、在籍児との対面挨拶の時間を設けることで、新入児が自然に学童の仲間として受け入れられるような工夫も見られる。さらに、障害のある子どもや発達面で特に配慮が必要な子どもに対しては、指導員や臨時職員の配置を工夫し、受け入れに向けた環境整備が行われている。</p> <p><b>子どもたちの自立を促すため、段階的な支援を通じて不安の軽減に努めている</b></p> <p>学童クラブ利用は原則として小学校3年生までとなっているため、卒会に際しては子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援が丁寧に行われている。1年生の段階から自立に向けた声かけを始め、子ども自身が次のステップに前向きに進めるよう促している。また、4年生になっても一人で昼食をとることに不安を感じる子どもに対しては、「ゆるやかな支援」として、学校休業日や土曜日に8月末まで受け入れを継続している。2月には3年生の保護者を対象に個人面談を実施し、4年生以降の生活について具体的な話し合いを行っている。</p>		

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
<b>評価項目1</b> 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		<b>評点(0000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している		○非該当
<b>評価項目2</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している		○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリー3の講評			
<p>子どもの状況に合わせて育成支援計画を立て、保護者の理解が得られるようにしている</p> <p>新BOPでは、子どもの視点に立った育成支援の目標に基づき、年間を見通した育成支援計画が策定されている。計画は子どもの興味を踏まえた内容となっている。遊びの選択や行事の企画においては、子どもの様子を見ながらイベントを変更したり増やしたりしている。障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもに対しては、職員ミーティングを通じて年齢や発達段階に応じた指導方法の工夫や共有がなされている。さらに、育成支援の目標や計画については、保護者への説明をお便りや保護者会を通じて丁寧に行い、理解と協力を得る体制が整っている。</p> <p>児童記録を活用した計画を立て、個別支援と職員間の情報共有が推進されている</p> <p>児童記録ファイルを活用し、子どもの基本情報に加え、育成支援計画に沿った具体的な援助内容や日々の変化を記録する仕組みが整っている。障害のある子どもや発達面で配慮が必要な子どもについては、年齢や発達状況に応じた個別支援の内容を詳細に記録し、職員間で共有することで、継続的かつ的確な支援が可能となっている。また、個別ファイルには特記事項やけがの状況、友だちとの関わりなども記録されており、子どもの生活全体を把握するための有効な情報源となっている。これらの記録は、職員が子どもの変化に気づき育成に役立てられている。</p> <p>子ども一人ひとりの状況を把握し、毎日のミーティングにおいて職員間で共有している</p> <p>児童記録ファイルを活用して育成支援計画の内容や援助の経過を記録し、全職員がそれを共有することで、子ども一人ひとりに対する理解が深まっている。保護者対応ノートを併用することで、家庭環境や保護者の意向などの変化にも対応できている。毎日のミーティングでは、職員が事例を持ち寄り、子どもの行動や感情の変化について話し合う機会が設けられており、指導方針の共通理解が図られている。今後は、こうした共通理解を基に、より具体的に効果的な指導方法の工夫を進め、支援の質をさらに高めていくことが期待される。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>子どもの個人情報保護とプライバシーに配慮した取り組みが行われている</p> <p>学童だより等に写真を掲載する場合は保護者からの同意を得ており、嫌な人は申し出てもらうように伝えている。外部の機関と子どもについての情報を共有するケースはなく、子どもの個人情報についての話や情報共有はミーティング時に限定されている。また、排泄の失敗や着替え等の対応は基本的に同性職員が行うようにし、体調不良時の休息や着替えをする場合は他の子どもから隔離できるカーテンで仕切られた空間を活用するなど、プライバシーを守る工夫をしている。発達相談を受ける場合は、区の臨床心理士による巡回相談を活用している。</p> <p>子ども一人ひとりの状態に合わせた声かけや、家庭の状況に応じた対応をしている</p> <p>体調不良やけがについては、子ども自身の申告を基本としつつ、職員が子どもの様子を観察し、必要に応じて声かけを行うなど、子どもの安全に配慮した対応がなされている。また、孤立しがちな子どもには積極的に声をかけ、遊びや会話に誘うことで、個々の感情や状況に寄り添った支援が行われている。宗教的な理由でおやつが食べられない子どもにはおやつを持参してもらうなど、家庭の価値観や文化的背景にも対応しており、子どもと保護者の生活スタイルを尊重している。性別や個人差にも配慮し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めている。</p> <p>子ども同士のトラブルがあった場合はお互いの話を丁寧に確認し、解決に導いている</p> <p>職員間ではいじめの定義を共有し、共通認識を持つことで対応の質を高めようとする姿勢が見られる。また、子ども同士のトラブルが発生した際には、双方の話を丁寧に聞き取り、状況に応じて保護者へ連絡を行うなどの対応がされている。子ども自身がいじめと認識していない場合でも、職員が「からかい」や不適切な言動に気づいた際には、個別に呼び出して話をするなど、未然に問題を防ぐ工夫がされている。一方で、全職員が子ども同士のトラブルに対して適切に対応できる力を養うことが今後の課題とされており、継続的な研修や情報共有が期待される。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>マニュアル等の手引書が整備されており、業務の基本事項や提供手順が明確化されている</p> <p>職員が日常業務を行う際、マニュアルや手順書に基づいて行動している。区から出されているマニュアルは分かりやすく整理され保管されており、誰でも手に取ることができる。学童クラブに携わる職員の人数は多いが、毎日のミーティングで業務の確認を行い、業務分担等が明確に行われ職員全員が標準化された支援を提供できる体制が整っている。臨時職員は勤務日や勤務時間が不規則で会議には参加しないが、日々の支援は定められた手順に沿って実施されている。毎月行われる企画会議等の中で、必要に応じて手順の見直しが行われている。</p> <p>毎日のミーティングで情報共有するほか、企画会議で行事などについて検討を重ねている</p> <p>毎日のミーティングで子どもたちの様子、トラブル、怪我、業務内容の確認、気になる点等について話し合っている。ミーティングで話し切れなかった事案や学校、地域との関連、行事の手順等は毎月の企画会議で検討されている。行事については振り返りも行われ、次回に活かされるよう工夫されている。勤務マニュアルに不都合が生じた場合には会議の中で見直しが行われ、内容は全職員に共有されている。臨時職員に対しても必要な事項は口頭で伝え、理解が深まるようにしている。年度末には業務の反省を行い、次年度の計画に反映させている。</p> <p>子どもの要望や保護者の意見は、日常の遊びの中や会話の中で把握するよう努めている</p> <p>保護者とのコミュニケーションは、お迎え時の会話や電話連絡の際、連絡帳アプリでのやり取りを大切に、日常的な接点を通じて意見や要望を把握する工夫がなされている。特に配慮が必要な子どもの保護者とは学童クラブでの生活での援助について話し合っている。こうした保護者からの意見は集約され、次年度の計画に活かされるなど、運営改善への具体的な取り組みにつながっている。子どもたちの日々の遊びや会話の中から自然に要望を汲み取り、行事内容やおもちゃの購入、遊びのリクエスト等は子どもの視点を大切にして次年度に反映している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>職員は日常的に子どもの声に耳を傾け、遊びの場面では会話を通じて要望を把握している</p> <p>職員は日常的に子どもたちの声に耳を傾け、遊びの場面では会話を通じて要望を把握している。特に遊びのリクエストが多く、子どもたちの興味関心を反映した活動が展開されている。また、障害のある子どもに対しても、他の子どもと同じ目線で関わる支援が行われており、共に生活する中で自然な関係性が築かれている。職員は、子ども一人ひとりの発達や生活背景を尊重しながら援助をしている。子どもたちから聞き取った内容や観察結果を記録・共有することで、支援の質を高めるとともに、子どもの自主性をさらに引き出すことを目指している。</p> <p>学童クラブでは、すべての子どもが遊びに参加できるよう支援が行われている</p> <p>学童クラブでは、年齢や性別、性格の違いに関わらず、すべての子どもが遊びに参加できるように支援している。異年齢や発達の異なる子どもたちが自然に関わり合い、遊びや生活をとおして、互いの違いを理解しながら過ごしている様子が見られる。職員は特定の担当を設けず、そばにいる職員が見守りながら必要な支援を行っており、子どもたちの自主性を尊重し、協力的な関係づくりを促している。さらに、支援の継続性や一貫性を確保するため、職員間での支援方針の共有や子どもの状況を確認している。今後は、関係性を深める活動の工夫を目指している。</p> <p>子ども同士のトラブル時は、職員が子どもの意見を傾聴し、気持ちを落ち着かせている</p> <p>子ども同士のトラブルが発生した際には、職員が子どもの意見に耳を傾け、気持ちを落ち着かせるために、場所を変えて話を聞くなど、情緒的な安定を図る対応が行われている。対応内容は個々にメモされ、ミーティングで報告・共有されており、必要に応じて個別ファイルや保護者への連絡帳にも記録されている。子どもの感情に寄り添い、安心して過ごせる環境づくりに貢献している。今後は、対応の標準化を図るための共通の「聞き取りシート」などの様式を整備することで、一貫性のある聞き取りがしやすくなると思われる。今後の検討に期待したい。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>遊具は整理・整頓され、子どもたちが、扱いやすいように保管されている</p> <p>クラブでは、新しい遊具の導入時に、全体への説明だけでなく、個別にも丁寧に使い方を伝える工夫がされている。遊具も整理・整頓され、子どもたちが、扱いやすいように保管されている。年度末には子どもたちの希望を聞きながら遊具を選定するなど、自主性を大切にしたい取り組みが見られる。こうした姿勢は、子ども一人ひとりの興味や発達段階に寄り添った環境づくりにつながっており、安心して遊びに取り組める土台となっている。今後は、より個々に合った遊びの提案や環境整備を進めていくことで、さらに豊かな日常が育まれることが期待される。</p> <p>グループを固定せず自由な関わりを大切にし、子ども同士の自主的な交流を促している</p> <p>日々の活動の中で、行事への参加や年上の子どもがリーダーとして関わる場面が設けられており、自然な形で集団活動への意欲が育まれている。グループを固定せず、自由な関わりを大切にしている点も、子ども同士の自主的な交流を促す良い工夫になっている。ただ、活動中の約束事やルールについては、指導員間での微妙な認識の違いが生じていることもある。今後は、職員同士で定期的に話し合いを重ねながら、子どもたちにもわかりやすく伝えられるようなルールづくりを進めていくことで、より安心して過ごせる環境を整えていくことに期待したい。</p> <p>夕方以降の時間は、静かな遊びや読書を通して気持ちを落ち着ける時間が設けられている</p>			

夕方以降の時間には、静かな遊びや読書を通じて気持ちを落ち着ける時間が設けられており、穏やかな気持ちで帰宅できるよう配慮されている。また、遊び道具の片付けや遊びのルールを通して、日常生活に必要な習慣が自然と身につくよう支援されている。こうした積み重ねは、共に学び合い、過ごすことで、子どもたちが社会生活へと移っていくうえでの大切な準備となっている。生活習慣の定着状況を職員間で共有しながら、子ども一人ひとりのペースに合わせた援助をすることで、子どもがより安心感を持てる環境を作っている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>年間を通じて、子どもたちが興味を持って参加できる行事やイベントを計画している</p> <p>クラブでは、年間を通じて行事やイベントの計画が立てられており、月ごとの活動にも振り返りを行うなど、計画的な運営がなされている。七夕やクリスマスなど季節感のある行事も取り入れられ、子どもたちが興味を持って参加できる工夫が随所に見られる。特に工作を中心とした活動は、子どもたちの創造力を引き出す場となっており、日常に彩りを添えている。今後も、子どもたちの声を反映しながら、創る喜びを感じ、季節や文化を感じられる行事を継続していくことで、より豊かな日常が生まれていくことが期待できる。</p> <p>行事の準備や運営では、子どもたちが係を担当したり意見を出し合ったりする場面がある</p> <p>行事の準備や運営においては、子どもたちが係を担当したり、意見を出し合ったりする場面が設けられており、主体的な関わりが促されている。特に3年生がリーダーとして活躍することで、年齢に応じた役割意識や協力の姿勢が育まれている。指導員のミーティングでは、前回の行事を振り返りながら改善点を話し合うなど、職員間の連携も丁寧に行われている。今後も、子ども同士の対話の場をさらに広げ、行事づくりの過程そのものを楽しめるような工夫を重ねていくことで、より深い学びと喜びを実現していくことに期待したい。</p> <p>行事の紹介や参加の呼びかけは、子ども向けのおたよりや保護者会で伝えられている</p> <p>行事の紹介や参加の呼びかけは、子ども向けのおたよりや保護者会などを通じて丁寧に行われており、家庭とのつながりを大切にしながら運営がなされている。年末のお楽しみ会では、景品づくりにご家庭の協力を得るなど、保護者が自然な形で行事に関われる工夫も見られる。こうした取り組みは、子どもたちの意欲を高めるだけでなく、保護者の理解と安心感にもつながっている。今後も、行事の様子を共有する機会を継続しながら、家庭との協力体制をさらに深めていくことで、より温かく豊かな活動が展開されていくことが期待される。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちはその日の遊びのプログラムを確認し、自分の好きな遊び場所を選んでいる</p> <p>クラブでは、登所後に子どもたちがその日のプログラムを確認し、自分の好きな遊び場所へ向かう姿が見られる。校庭では「ちからやま」やサッカー、一輪車など、年齢や性別を問わず多様な遊びが展開されており、子どもたちが主体的に楽しめる環境が整っている。室内では、ボードゲームや本・シリーズマンガが多く配置されている。遊びの選択肢の広さは、子ども自身が学童生活を快適に感じる大きな要因となっている。今後も子どもたちの興味や季節の変化に応じて遊びの内容を工夫しながら、通いたくなる場づくりを継続していくことが期待される。</p> <p>生活時間にメリハリを持たせる工夫として、静かな遊びや宿題の時間が設けられている</p> <p>生活時間にメリハリを持たせる工夫として、静かな遊びや宿題の時間が設けられており、子どもたちが見通しを持って過ごせるよう配慮されている。特に夕方の時間帯には、落ち着いた活動を通じて帰宅への準備が自然に促されており、安心して一日を終えることができるようになっている。BOPが終了した後のスタッフとの会話では、1日の振り返りや、明日の予定など話す場面もありのんびりとした時間になっている。一方で、帰宅時間との兼ね合いにより、遊びの選択肢が限られてしまう場面もあるが、子どもたちが最後まで楽しく過ごせるようにしている。</p> <p>「BOP児」「学童児」といった区分けをせず、全ての子どもをスタッフが見守っている</p> <p>天候や参加人数に応じて、毎日の環境調整が丁寧に行われており、安全面への配慮が感じられる。雷注意報や光化学スモッグ注意報などの際には、外遊びを中止し、リーダーが子どもたちに声をかけるなど、安心して活動できる環境を整えている。また、放課後子供教室との連携においては、「BOP児」「学童児」といった区分けをせず、すべての子どもをスタッフが見守る姿勢が貫かれており、誰もが心地よく過ごせる環境づくりがなされている。一体的な支援を大切にしながら、子どもたちの主体性を育む場としての質を高めていくことを目指している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

**新BOPでは、学校施設の毎日の使用状況を学校側と確認しながら調整を行っている**

新BOPでは、学校施設の利用にあたり、ランチルームや教室、体育館、校庭などを柔軟に活用しており、毎日の使用状況を学校側と確認しながら調整を行っている。授業や会議の都合による変更にも迅速に対応できるよう、日々の連絡を欠かさず行っている点は、円滑な運営に向けた丁寧な連携の姿勢をとっている。玉川小新BOP連絡協議会では、新BOPの利用状況や行事の年間行事計画などが報告され、学校関係者や地域団体と、情報交換も行っている。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに向けた協力体制を目指している。

**不登校などの課題を抱える子どもに対しては、担任との連絡を通じて状況を共有している**

不登校や「行き渋り」などの課題を抱える子どもに対しては、担任との連絡を通じて状況を共有し、学童クラブでの過ごし方に配慮した支援が行われている。学校を休んでも学童クラブには来られるような柔軟な対応は、子どもにとって安心できる居場所のひとつとなっており、心の安定にもつながっている。また、養護教諭との連携により、アレルギー対応やケガの際の情報共有も丁寧に行われており、個々の健康面への配慮も感じられる。今後は、定期的な情報交換の機会を設けることで、より一層きめ細やかな支援が可能になることに期待したい。

**配慮が必要な子どもへの支援では、専門職による観察と助言を受けながら対応している**

発達面や養育環境に配慮が必要な子どもへの支援においては、世田谷区の巡回相談を活用し、専門職による観察と助言を受けながら対応が進められている。今年度からは児童課にも専門職が配置され、各新BOPへの巡回相談が行われるようになったことで、より身近に相談できる体制が整ってきている。こうした外部機関との連携は、職員の支援力向上にもつながっており、子どもたちの安心感にも寄与している。今後も、相談の機会を活かしながら、子ども一人ひとりの状況に応じた支援を丁寧に積み重ねていくことを目指している。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

**おやつ時間は、楽しく落ち着いて過ごせる雰囲気を作っている**

おやつ提供時は自由席としていることから、子どもが自分のペースで落ち着いて過ごせる雰囲気が醸成されている。時には、仲の良い友だちと一緒に食べたいという希望にも柔軟に対応しており、子どもの気持ちに寄り添った支援が行われている。麦茶の提供による水分補給や、マナー指導を通じた穏やかな時間の確保など、職員の丁寧な関わりが子どもたちの安心感につながっている。おかわりを希望する場合には、「おかわりBOX」から好きなおやつを選ぶ楽しみがあり、子どもたちに好評である。

**校庭遊びや降所時間を考慮しながら、学年順に声かけし、おやつを提供している**

おやつ提供は14時30分から開始され、校庭遊びや降所時間との兼ね合いを考慮しながら、学年順に声かけを行うなど時間配分に工夫が見られる。帰宅時間や夕食のタイミングを踏まえた提供は子どもの生活リズムへの配慮として評価できる。おやつは区の契約業者から週1回配達され、事前に届くメニュー表を基に一週間の献立を計画している。乳製品、調理パン、果物など多様な内容が含まれており、子どもたちの楽しみにつながっている。行事食の提供はないものの、季節のイベントに合わせたパッケージおやつが提供されることもあり楽しみにしている。

**食物アレルギー児童からおやつを提供し、誤食防止に向けた体制が整えられている**

食物アレルギーへの対応は、職員全員で毎日確認を行い、誤食防止に向けた体制が整えられている。アレルギーのある子どもには、個別に対応したおやつを用意し、専用のプラケースに保存されたものを、マニュアルに基づいて提供している。食器も名前入りの専用のものを使用し、職員のそばの決まった机で食べることで、安全性を確保している。おやつ提供順もアレルギーのある子どもから始めるなど、細やかな配慮がなされており、他の子どもとの区別も徹底されている。現在、持ち込みはなく、管理のしやすさと安全性の両立が図られている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>職員が子どもの顔色や体調の変化を確認し、必要に応じて保護者へ連絡している</b>  登所時やおやつ時間、降所前など複数のタイミングで職員が子どもの顔色や体調の変化を確認し、必要に応じて保護者へ連絡している。連絡はコモンを活用し、緊急時には電話対応も行うなど、迅速な対応体制が整っている。また、子ども自身が保護者に体調を報告する練習も取り入れられており、自立を促す支援がなされている。遊具の使用についても、怪我防止の観点から正しい使い方を繰り返し指導しており、欠席児童にも配慮した周知が行われている。職員による遊具の点検と老朽化への対応も適切で、安全確保に努めている。</p> <p><b>体調不良時には、事務室奥に簡易ベッドを設置し、静かに休める環境が整えられている</b>  体調不良時には、事務室奥に簡易ベッドを設置し、静かに休める環境を整えている。感染症が疑われる場合には、保護者に速やかに迎えを依頼するなど、周囲への配慮も含めた対応がなされている。保護者には、入会説明会や保護者会を通じて体調不良や怪我時の対応方針を丁寧に説明している。怪我が発生した場合は「ケガノート」に記録し、職員間のミーティングで共有することで再発防止や対応の質向上に努めている。日常的な指導として、体調不良時の自己申告や安全な遊び方の習得を促し、子どもが自らの健康を意識し予防的行動を取れるよう支援している。</p> <p><b>保護者と連携しながら、安全に配慮した丁寧な対応がなされている</b>  現在、学童クラブの利用児童にエピペン保持者はいないが、BOP登録児童には保持者がいるため、ランドセルへの保管を徹底している。専門機関との直接的な連携はまだないが、保護者を通じて情報を共有しながら、安全に配慮した対応がなされている。今後、医療的ケアが必要な児童の受け入れが想定される場合には、専門機関との連携体制づくりを図っていく意向としている。現時点では、クラブでできる範囲において、安全に配慮した丁寧な対応がなされている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>職員は日常的に保護者に寄り添い、環境の変化に対応しながら信頼関係を築いている</b>  保護者の個々の事情に寄り添い、午前中の利用や帰宅時間の延長など、家庭の状況に応じた対応が可能となっている。勤務先の変更や生活環境の変化があった際には、保護者からの自己申告をもとに変更届の提出を促している。また、日々の子どもの送迎時には保護者との会話を大切に、信頼関係の構築に努めている。こうした日常的なコミュニケーションを通じて、保護者の不安や悩みに寄り添いながら、子どもたちの健やかな成長を支える環境づくりが実践されており、地域における子育て支援の拠点としての役割を果たしている。</p> <p><b>保護者の交流を促進し、学童クラブが安心できる子育て支援の場となるよう努めている</b>  学童クラブの保護者会の中で自己紹介の時間が設けられ、保護者同士が交流できるよう配慮している。父母会では、新1年生の保護者に向けた学童クラブの説明会を開催し、不安の軽減につながっている。父母会に職員が出向くことはないが、必要な資料を提供している。父母会はPTAの祭りにゲームの店を出店し、学童クラブの活動紹介もしている。職員は日々のおたよりや面談、送迎時の会話や電話連絡で会話を通じて保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。保護者との日常的な関わりの積み重ねを大切にしている。</p> <p><b>子どもの成長や安全を見守り、保護者との日々の連絡を密にしている</b>  子どもの発達状況については、保護者との間で共通理解を深めるため情報交換が行われ、お互いに子どもの成長を見守る姿勢がうかがえる。また、出欠席の確認に際しては、連絡帳アプリと電話連絡を併用し、保護者との協力のもと安全確保に努めている。特に、電話での保護者なりすまし防止のために子どもの生年月日を確認するなど、子どもを守るための配慮が見られる。帰りの会では危険事例を紹介し、午後5時以降の一人帰りの子には信号まで見送るなど安全面への配慮が徹底されており、寄り道をしないで気をつけて帰るよう指導している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>児童館との連携等を通じて、子どもが多様な体験や交流を楽しめるようにしている</b></p> <p>地域との連携を通じて子どもの生活の幅を広げる取り組みとして、地域資源の活用や交流の機会が設けられ、管轄の児童館と連携している。地域の人材を招いたイベントが夏と冬に開催され、子どもたちが興味を持ち、取り組みやすい工作を教えてもらっている。こうした活動は、日常とは異なる体験を楽しむ場となり、地域の多様な文化や価値観に触れる貴重な機会となっている。また、児童館まつりへの参加を呼びかけたり、地域イベントの情報を提供したりすることで、子どもたちが地域社会の一員としての意識を育むことにもつながっている。</p> <p><b>地域の人や高校生との関わりの中で、多世代との交流体験をする機会を提供している</b></p> <p>新BOPの行事として、地域で人形劇を行っている方々を招き、人形劇を鑑賞した。学童クラブの児童数が多いため、2回に分けて上演してもらうなどの工夫を凝らした。学童クラブ室内で行われたため、安全面にも配慮されており、子どもたちは楽しい時間を過ごした。鑑賞を希望した児童は全員が参加でき、子どもたちにとってかけがえのない体験となり、豊かな感性を育む良い機会となった。また、高校生のボランティア実習も受け入れており、子どもたちは年齢の近い人と接することで、お互いにとって良い経験となり、世代を超えた交流が生まれている。</p> <p><b>学童クラブは学校や地域と連携し、協議会等を通じて情報共有や理解促進に努めている</b></p> <p>学童クラブでは「学校協議会」に参加し、学校や地域の関係者との情報交換を行っている。また「学童クラブ連絡協議会」を開催し、学校や地域の関係機関や父母会等と年間計画や学童クラブの様子、行事、子どもたちの学童での様子等を伝え、学童クラブへの理解が深まるよう取り組んでいる。管轄の児童館では「児童館職員会議」を開催しているほか、近隣との学童クラブと毎月「学童クラブ会議」を行い、情報交換や課題の共有等を行っている。職員は地域のイベントの情報収集を行い、帰りの会などでチラシを配布し内容を口頭で伝え、参加を促している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	研修受講やOJTで質の向上を図っているほか、分かりやすいマニュアルも作成している	
内容①	クラブでは、勤務形態に関わらず全職員が研修を受講できる体制を整えている。アレルギー対応や虐待防止などの年間研修のほか、専門的な外部研修やOJTを通じて実践力を高めている。受講後は報告や会議で学びを共有し、組織全体の質の向上を図っている。また、各種マニュアルを整備し、職員間での共通理解を促進している。特に、会計年度職員兼臨時職員勤務マニュアルには、子どもへの関わり方や活動時の注意点などが明記され、誰もが安心して役割を担える体制を築いている。チームで協働し、目標達成や課題解決に向けて取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	子どもたちの意欲と主体性を大切にしながら、行事やイベントを企画・実施している	
内容②	子どもたちの「やってみよう！」という主体性を大切にしながら、行事やイベントを企画・実施している。「3年生会議」では、夏休みの「リレーイベント」に向けて、準備や進行、役割分担など意見を出し、話し合いながら進める姿が見られた。普段の遊びが大会形式になることで、子どもたちの意欲も高まり楽しい経験となっている。自分たちのアイデアが形になったことは、大きな自信につながっており今後の成長にもつながっていくと感じられる。また、活動の様子を記録やおたよりで丁寧に伝えており、活動の意義も保護者らに伝わっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	毎月発行される「学童だより」が家庭との連携を深め、保護者の理解につながっている	
内容③	学童クラブに通う保護者に向け毎月便りが発行されている。入会案内で伝えきれなかった内容や、保護者会・個人面談・季節の行事に関する案内などを補足しており、家庭との連携を深める重要な役割を果たしている。紙面内の「学童の風景」では、異年齢の子どもたちとの関わりや、現在行われている遊びの紹介、職員の想い、学童クラブでの様子等が詳細に伝えられている。おたよりにより家庭での親子の会話のきっかけづくりにもなっている。読みやすいレイアウトやイラスト、文字の大きさに配慮され保護者の理解と安心感につながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「ゆるやかな支援」による自立への移行と、安心感のある継続的な支援体制ができている
	内容	クラブでは、子どもの自立に向けた「ゆるやかな支援」を丁寧実践している。学童クラブ登録期間終了後も、BOP事業を通じて昼食対応などの支援を継続し、保護者の相談に応じた柔軟な引継ぎを行っている。制度利用には申請手続きやスペースの制約があるものの、夏休み期間中まで支援が継続されることで、子どもは段階的に自立へと進み、保護者も安心して子育てに向き合える環境が整っている。こうした取り組みは、世田谷区が掲げる「成育支援」の理念に沿ったものであり、子どもの成長と家庭の安定を両立させる支援体制として評価できる。
2	タイトル	個別記録ファイルに子ども一人ひとりの基本情報や家庭状況等様々な気になる事柄を綴り、職員間で共有し子ども達の支援に役立っている
	内容	子ども個別のファイルが作成され、子どもの日々の生活の中での特記事項や友達との関わり、面談記録、保護者との相談内容などがファイルして保存されている。時系列での把握が可能となっている。これらの記録は職員間で共有され、子どもの状況を客観的に分析する基盤となっている。保護者会や個人面談の際にも有効に活用され、継続的な支援に役立てられている。入会申請書に記載された児童の状態や家族構成、保護者の勤務先などの情報と照らし合わせながら、日々の様子を総合的に確認する姿勢は、子ども一人ひとりに寄り添った支援といえる。
3	タイトル	学童クラブから自立するための準備を1年生から取り組み、段階を踏んで実践できる分かりやすい表を作り家庭と共有して支援している
	内容	「遊びを中心とした生活を通して自立への支援をする」という目標のもと、子どもたちが段階的に自立へ向かうための計画が立てられている。3年生の卒会の準備として、家庭での留守番や鍵の管理、緊急時の対応、遊びに出かけるときの約束等、生活に必要な力を育む支援が行われている。1年生では保護者と一緒に取り組む8項目の課題が設定され、2・3年生にはさらに自立へ向けた23項目となっている。子ども自身が確認する欄と保護者が確認する欄があり家庭での確認に役立てられている。項目は子ども目線に立った分かりやすい内容となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	企画会議への職員の参加拡大や、プレイングパートナー職員へのアンケートなどの取り組みを成果につなげていくことに期待したい
	内容	クラブでは、日々のミーティングや月例の企画会議において、職員一人ひとりの気づきや工夫を共有している。会議の決定事項は全体で確認し、職員間の連携を図っている。今後は、企画会議に参加する職員の対象を拡大することにしており、より多くの職員が意思決定の過程について理解し、チームの一体感を高めることを目指している。また、職場での困りごとを把握するため、プレイングパートナーにアンケートを実施し、連携上の課題について注意喚起を行っている。こうした取り組みを成果につなげ、より充実した組織体制を実現していくことに期待したい。
2	タイトル	新BOPとして地域資源を活用し、子どもたちが地域の人たちとの交流や新しい体験が増えるような取り組みの検討が望まれる
	内容	区では「放課後児童健全育成事業の運営方針」の中で児童の放課後の過ごし方を安全で豊かなものにするため地域と連携した取り組みを行い子ども達に様々な体験や交流の場を提供するよう記載されている。学童クラブでも学校や地域とのつながりを大切にし、学校の協議会や学童クラブ主催の連絡協議会、保護者会等で学童クラブの事業内容の周知や情報共有等行っている。しかし、学童クラブの在籍人数が多いことなどから、学童クラブとしての地域へ出かけるなどの行事への参加が難しい状況である。今後も地域資源の活用方法を検討することが望まれる。
3	タイトル	学校との定期的な意見交換を重ねながら、子どもたちにとって安心できる環境づくりがさらに進むことを期待したい。
	内容	新BOP事業については、学校協議会への参加や地域団体との連携など、着実な取り組みが進められている。一方で、学校全体への理解や教員との情報共有には、今後の工夫が期待される。特に担任へのおたより配布などを通じて、学童クラブの様子が伝わることで、児童への理解が深まり、より温かな連携が育まれる可能性がある。放課後の安定した居場所の確保や、施設使用に関する調整も含め、学校との定期的な意見交換を重ねながら、子どもたちにとって安心できる環境づくりがさらに進むことを期待したい。